

アメリカ : U.S. Web Design System (USWDS)

都市概要

国名/都市名 アメリカ合衆国

人口 約3億3,650万人 (2024年6月時点)

各種デジタル
ランキング上
の位置づけ 「第19回早稲田大学世界デジタル政府総合ラン
キング2024」で第4位
「2024年 世界デジタル競争力ランキング」で第4位

社会情勢・
インフラ・
文化

- 米国政府は政府HP「USA.gov」を集約的な「連邦のデジタルな玄関」とし、政府の給付金、サービス、プログラムに「1～3回のクリック、タップ、コマンドのみ」でアクセスできるようにしている。
- 大統領府の行政管理予算局が覚書M-23-22「デジタルファーストの公共体験の提供」を2023年9月に公表するなど、デジタルガバメントの推進に向けた取組が積極的に進められている。

出典：社会情勢・インフラ・文化、AIS 一般社団法人 行政情報システム研究所、
https://www.iais.or.jp/ais_online/online-articles/20241001/202410_02/、2025-01-31



アメリカ : U.S. Web Design System (USWDS)

事例概要

所掌組織

- 米国連邦政府一般調達局 (General Services Administration : GSA) 18F
- ホワイトハウス内 米国デジタルサービス (U.S. Digital Service : USDS)

取組概要

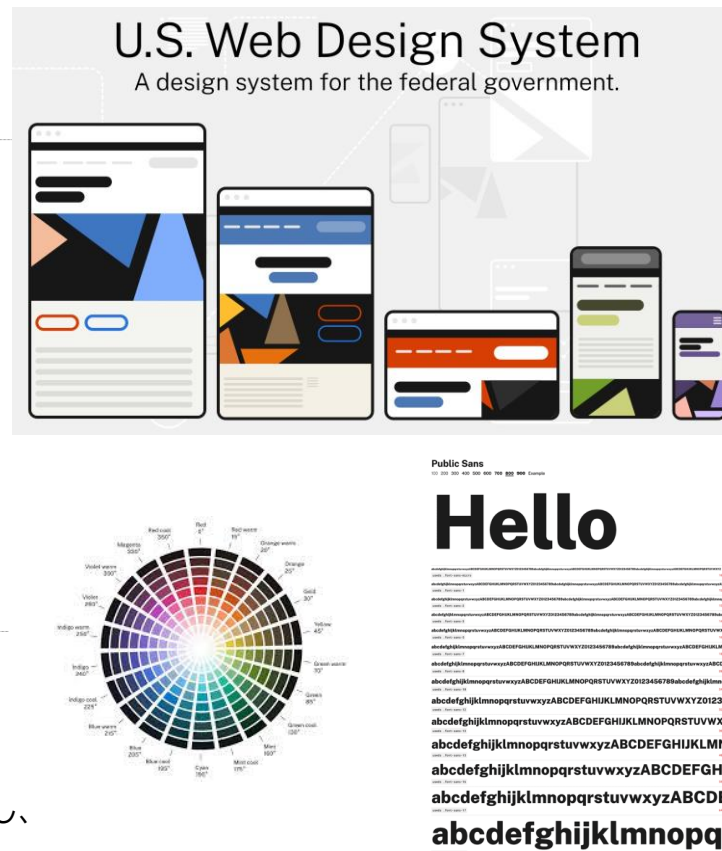
- 政府系Webサイト構築のアクセシビリティ・統一性の確保及び工数削減を目的に、米国政府系Webサイト構築時に共通するUIコンポーネントとビジュアルスタイルを定義したデザインシステム。
 - UIコンポーネント : 政府サイトの基本的なインターフェース用途と、それらを動かすコードのコレクション
 - ビジュアルスタイル : 508アクセシビリティ標準に準拠し、柔軟性があり、読みやすさとインパクトを考慮して設計された書体と色の推奨事項
- 行政担当者が管轄する行政サービスのUXを高めるための手順を示す「USWDS成熟度モデル」も整備。3段階に渡り、具体的な方法や示すべき標準・基準ガイドを整備している。

沿革

- 2014年 : オバマ大統領により、18F、USDSが設立
- 2015年 : 「U.S. Web Design System (USWDS)」を構築
- 2017年 : version1.0 を正式にリリース
- 2018年 : 21世紀統合デジタルエクスペリエンス法 (21世紀IDEA) を制定し、USWDSの利用によるデジタル政府サービスの近代化を推進
- 2019年 : 政府向け専用フォント「Public Sans」をリリース
- 2023年 : 160の政府系Webサイトで使用、94機関がコードを使用、連邦政府のWebサイトビューが11億に到達

参考 出典

- 取組概要、アメリカウェブデザインシステムズ、<https://designsystem.digital.gov/>、2024-12-20
- 所掌組織・沿革、アメリカ政府一般調達局 18F、<https://18f.gsa.gov/2015/09/28/web-design-standards/>、2024-12-20



アメリカ : U.S. Web Design System (USWDS)

調査内容

設立のきっかけ

米国には連邦政府だけでも約2万6,000件もの政府系Webサイトがあり、当初は各サイトが独自のデザイン、フォント、ログインシステムを採用していたため、国民の間では不満が生じ、リソースを無駄にしていた。

また2013年には、米政府が運営する医療保険サイト「Healthcare.gov」が問題を抱えたまま立ち上がり、国民の間で米政府が提供するデジタルサービスへの不満が生じていた。

背景

例：学生ローンの申請や退役軍人給付金等の政府が提供する行政サービスを受けるため関連するWebサイトを調べたところ、複数の機関を検索せねばならず、また関連するWebサイトが何十も見つかった。そのため、どのサービスが自らに適したものかを判別しかねる状況となっていた。

設立の経緯

2014年、オバマ大統領は政府デジタルサービスの改善を推し進めるべく、新たに「18F」と「USDS」という2つのチームを設立。2つのチームが主体となり、政府系Webサイト全体のアクセシビリティと一貫したユーザー体験を確保することを目的に、4か月でUSWDSを構築した。

ミッション

- 政府のデジタルサービスの未来を形作る。

予算

デスクトップリサーチでは詳細不明

人員体制

- 具体的な人数は不明。構成は、連邦金融規制監督機関、食品医薬品局、退役軍人省、社会保障局、教育省、内国歳入庁、一般調達局の政府職員からなる諮問委員会の指導下で、18FとUSDSが主導。

参考 出典

- 背景（設立のきっかけ）・ミッション・人員体制、アメリカ政府一般調達局 18F <https://18f.gsa.gov/2015/09/28/web-design-standards/> 2024-12-20
- 背景（設立の経緯）、MIT Technology Review、<https://www.technologyreview.jp/s/340127/inside-the-us-governments-brilliantly-boring-websites/>、2024-12-20

アメリカ : U.S. Web Design System (USWDS)

調査内容

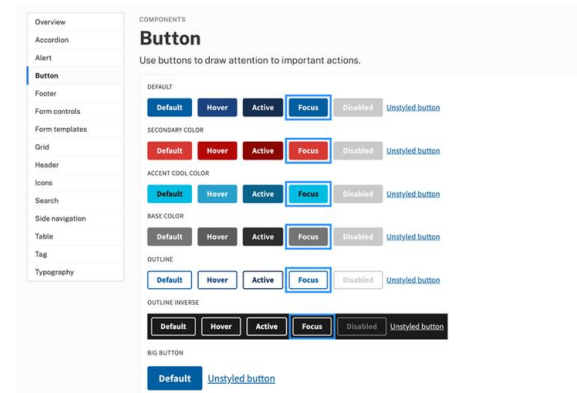
■ UIコンポーネント・ビジュアルスタイル

- 政府系Webサイト全体のスタイルガイド、ユーザーインターフェイス・コンポーネント、デザイン・パターンをまとめた米国政府独自のウェブサイト用共通 UI コンポーネントとビジュアルスタイルのセット。
- 開発者向けには、Node.jsを通じてソースコードを配布し、デザイナー向けには、Sketch・Adobe XD・Figma形式でデザインアセットが提供されている。
- ボタン、アラート、検索ボックス、フォームなど、47のUIコンポーネントが定義され、それぞれデザイン例、サンプルコード、それに「礼儀正しく」「やり過ぎない」などのガイドラインが添付されている。

【ガイドラインの一例】

- ユーザーはキーボードのみを使用してサイトをナビゲートできますか？
- ユーザーはスクリーンリーダーを使用してすべてのコンテンツにアクセスできますか？
- ユーザーはコンテンツの要点をすぐに理解できますか？
- ユーザーは重要なタスクを簡単に理解して完了できますか？
- 幅広いユーザーを対象にサービスをテストしていますか？

- 加えて、サービスデザインに基づく行政サービスの設計原則も記載があり、政府行政Webサイトで必須の信頼獲得方法や、アクセシビリティの拡充方法、継続性の高め方などの検討事項が箇条書きでまとめてある。そのため、自身が設計したサービスを公開する段階での最終確認チェックリストとしても活用が可能。



特徴的な
機能

参考
出典

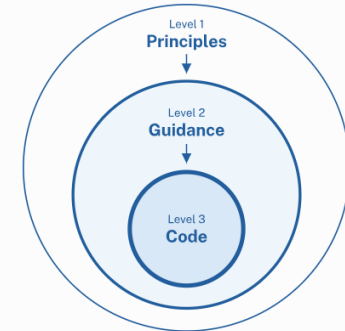
- 特徴的な機能、アメリカウェブデザインシステムズ、<https://designsystem.digital.gov/>、2024-12-20

アメリカ : U.S. Web Design System (USWDS)

調査内容

■ USWDS成熟度モデル

- 行政担当者が管轄する行政サービスのユーザー体験を向上させるために、踏むべきステップを整理したモデル。
- Level1 : Principles (原則) から始めて、Level2 : Guidance(ガイドライン)、Level3 : Code (コード) へと進むことで、行政サービスを成熟させる方法論を示すだけでなく、「必ずしも一度に導入する必要はなく、最終的に政府全体でUSWDS設計原則を統合することが目的である」というメッセージを伝えるものとしても有用となっている。



USWDS成熟度モデル

【Level1 : Principles】
Integrate design principles (設計原則を統合する)

【Level2 : Guidance】
Follow user experience guidance (UXガイダンスに従う)

【Level3 : Principles】
Use USWDS code (USWDSコードを使用する)

- 成熟度評価ワークシートが作成されており、設計原則と個々のコンポーネントの理解・進捗状況を追跡するチェックリストとして使用できる。

Start with real user needs

Real user needs should inform product decisions.

Whether our audience includes members of the public or government employees, decision-makers must include real people in our design process from the beginning.

Then, we need to test the assumptions we make and the products and services we build with real people, to keep us focused on what is most useful and important.

<https://designsystem.digital.gov/design-principles/>

Related topics

Agile
Collaborative design
Direct observation
Minimum viable product
Outreach
Paperwork Reduction Act
Personas
Prototyping
Research
Research methods
Testing
User centered design
User journeys
User stories
Validation

Key considerations (8)

- Does your product or service have access to the resources necessary to perform research?
- Who is your primary audience?
- What user needs will this product or service address?
- Do you use personas or other audience analysis techniques to connect your solutions to different segments of your audience?
- How often are you testing with real people?
- Which people will have the most difficulty with the product or service?
- Which research methods were used?
- What were the key findings?
- How and where were the findings documented?

Practical actions (5)

- Start early.** Early in the project, spend time with current and prospective users to better understand their perspective and the context of the problem.
- Use a range of methods.** Use a range of qualitative and quantitative research methods (such as IGF Methods) to determine people's goals, needs, and behaviors.
- Use prototypes.** Use prototypes to test your assumptions and solutions with real people, in the field if possible.
- Share your findings.** Document and share your research findings with team members, managers, and the public, when practical.
- Test regularly.** As the product is being built, regularly test it with potential users to ensure it meets people's needs.

費用対効果

- 米国デジタルサービス局の見立てでは、USWDSを使用することで、ITプロジェクトにつき10万ドル節約することを見積もっている。
- シカゴ市では、Webサイトやモバイルアプリのデザインとコードにかかる部門のIT支出を数百万ドル節約。

参考 出典

- USWDS成熟度モデル、アメリカウェブデザインシステムズ、<https://designsystem.digital.gov/>、2024-12-20
- 費用対効果、シカゴ市デザインシステム、<https://design.chicago.gov/2019/09/23/why-the-chicago-design-system.html>、2025-01-27

参考：21世紀統合デジタルエクスペリエンス法（21世紀IDEA）

調査内容

概要

- **21世紀統合デジタルエクスペリエンス法（21st Century Integrated Digital Experience Act : 21st IDEA法）**
- 2018年12月に署名され法律として制定された超党派法案で、政府が各省庁に対して、ユーザーのデジタル体験を高めることを義務付けたもの。以下の5つの事項を満たすべく、各事項に紐づく要件を達成することを要求している。
 - ウェブサイトを近代化する
 - サービスとフォームをデジタル化
 - 電子署名の利用を加速する
 - 顧客体験の向上
 - 標準化と集中型共有サービスへの移行

USWDSとの 関連性

- USWDSにより作成可能なWebサイト等は、上記の事項に紐づく要件を満たしていることから、米国内の行政機関ではUSWDSの使用が進んでいる。
- 2023年9月、行政管理予算局（OMB）は、「デジタルファーストの公共体験の提供」を発行。これは、行政サービス設計におけるフレームワーク及び要件を確立するもので、その中で「デザインについては、USWDSのコンポーネントを使用する」と記載されており、デジタルファーストの公共体験に欠かせないものとなっている。

採択の背景

- 連邦政府は毎年4億人以上に情報やサービスを提供しており、Webサイトへのアクセスは毎月約20億回に達し、国民は800億時間以上を政府とのやり取りに費やしている。
- デジタルファーストのアプローチを採用することで、政府は人々が日常的に頼りにする情報やサービスへのアクセスを向上し、何百万人もの生活を改善する大きな機会を提供できる。

参考 出典

- USWDSとの関連性、アメリカウェブデザインシステムズ、<https://designsystem.digital.gov/>、2024-12-20
- 概要・採択の背景、アメリカ政府、<https://digital.gov/resources/delivering-digital-first-public-experience/>、2024-01-28

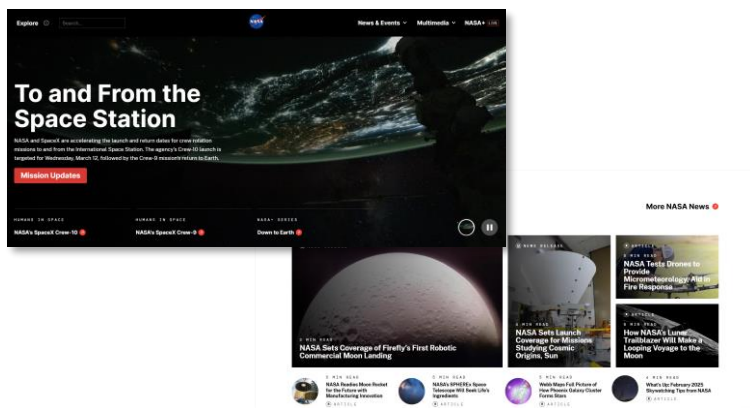
参考：USWDSにより構築された主なWebサイト

調査内容

主なサイト

■ NASA

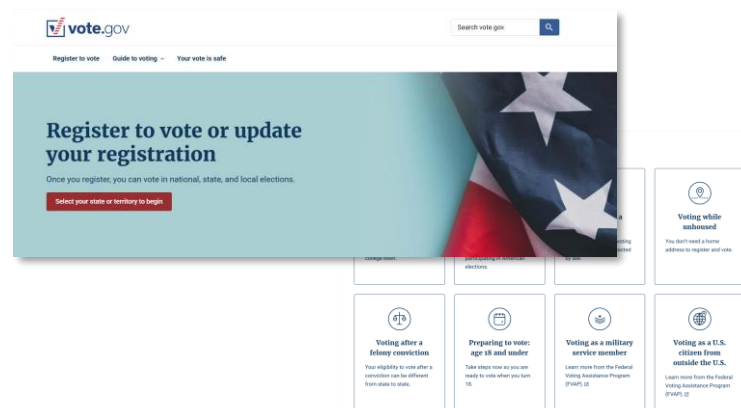
- アメリカ航空宇宙局（NASA）の公式サイト



NASA, <https://www.nasa.gov/>, 2025-2-18

■ vote.gov

- 大統領選前に有権者登録手続きを行うサイト



Vote.gov, <https://vote.gov/>, 2025-2-18

ポイント

- Lone Rock Point社は、USWDSデザインコンポーネント及び設計原則に基づき、「NASA公式サイト」及び「NASA+（NASAの動画ストリーミングサービス）」を再構築。その結果、インターネットにおける優れた業績を表彰するメジャーな国際賞である「Webby Awards」を受賞した。

その他の構築サイト

USWDSによると、以下のサイトもUSWDSデザインコンポーネントを使用して構築されている。

- 米国政府：USA.gov
- ホワイトハウス：The White House
- アメリカ合衆国裁判所：United States Courts
- 米国財務省：U.S. Department of the Treasury
- 米国軍人省：U.S. Department of Veterans Affairs
- 国立衛生研究所：National Institutes of Health

参考
出典

- 主なサイト、その他の構築サイト、アメリカウェブデザインシステムズ、<https://designsystem.digital.gov/documentation/showcase/>, 2025-02-18
- ポイント、<https://lonerockpoint.com/2024/05/nasa-sites-built-by-lone-rock-point-win-webby-awards/>, 2025-02-18